

桐生商工会議所管内
景況調査報告書

第113回

(平成28年4～6月期)

平成28年8月
桐生商工会議所
桐生中小企業相談所

調 査 要 領

1. 調査目的 本調査は、当所管内事業所の経済動向及び現状を把握し、情報化社会に対応した企業経営の指針とするとともに、今後の経営支援の参考に資することを目的とする。
2. 調査時点 平成28年6月1日
3. 調査期間 平成28年4～6月期
4. 調査対象企業数 396企業（うち回答企業数154企業）

5. 調査対象業種

①建設業（回答企業数16企業）

建築・大工業、土木業、管工事業、とび・コンクリート業、鉄骨・鉄筋業、電気工事業、左官・屋根業、塗装業、板金業、その他

②商業・サービス業（回答企業数77企業）

卸売業、小売業、飲食業、サービス業

③製造業

機械金属関連業（回答企業数34企業）

鉄鋼業、金属製品製造業、一般機械器具製造業、電気機械器具製造業、輸送用機械器具製造業、精密機械器具製造業、プラスチック製造業、その他

繊維工業（回答企業数27企業）

撚糸業、織物業、染色整理業、ニット・メリヤス業、レース業、縫製業、刺繍業、その他

DIとは、ディフュージョン・インデックス（Diffusion Index）の略で、このDIの変化を分析することにより経済動向の判断を行います。

このDIは、好転企業の割合から悪化企業の割合を差引き算出し、好転が悪化を上回る場合プラス（+）となり、逆に悪化が好転を上回る場合マイナス（-）となります。

DIについては数値の水準のみならず、数値の変化がどういう方向を向いているかが重要です。

1. 景況の動き

【業況D I】

今期の業況D Iは、全体で**-27**。前期（-30）比は+3ポイントであった。また前年同期（-30）比では+3であった。

業種別では、**建設業-31**（前期比-13、前年同期比-24）、**商業・サービス業-44**（前期比-3、前年同期比+1）、**機械金属製造業+4**（前期比+36、前年同期比+22）、**繊維製造業-11**（前期比+21、前年同期比+10）となった。

【採算D I】

今期の採算D Iは全体で**-30**。前期（-36）比は+6ポイント、前年同期（-35）では+5ポイントであった。

業種別では、**建設業-38**（前期比-3、前年同期比+2）、**商業・サービス業-47**（前期比-4、前年同期比-2）、**機械金属製造業+4**（前期比+23、前年同期比+30）、**繊維製造業-8**（前期比+24、前年同期比+11）となっている。

【来期業況D I】

来期の業況予測D Iは全体で**-31**。前期（-29）比では-2ポイント、前年同期（-27）比では-4ポイントであった。

業種別では**建設業-19ポイント**（前期比±0、前年同期比-12）、**商業・サービス業-45ポイント**（前期比-9、前年同期比-9）、**機械金属製造業-8ポイント**（前期比+34、前年同期比+13）、**繊維製造業-25ポイント**（前期比-2、前年同期比-4）となっている。

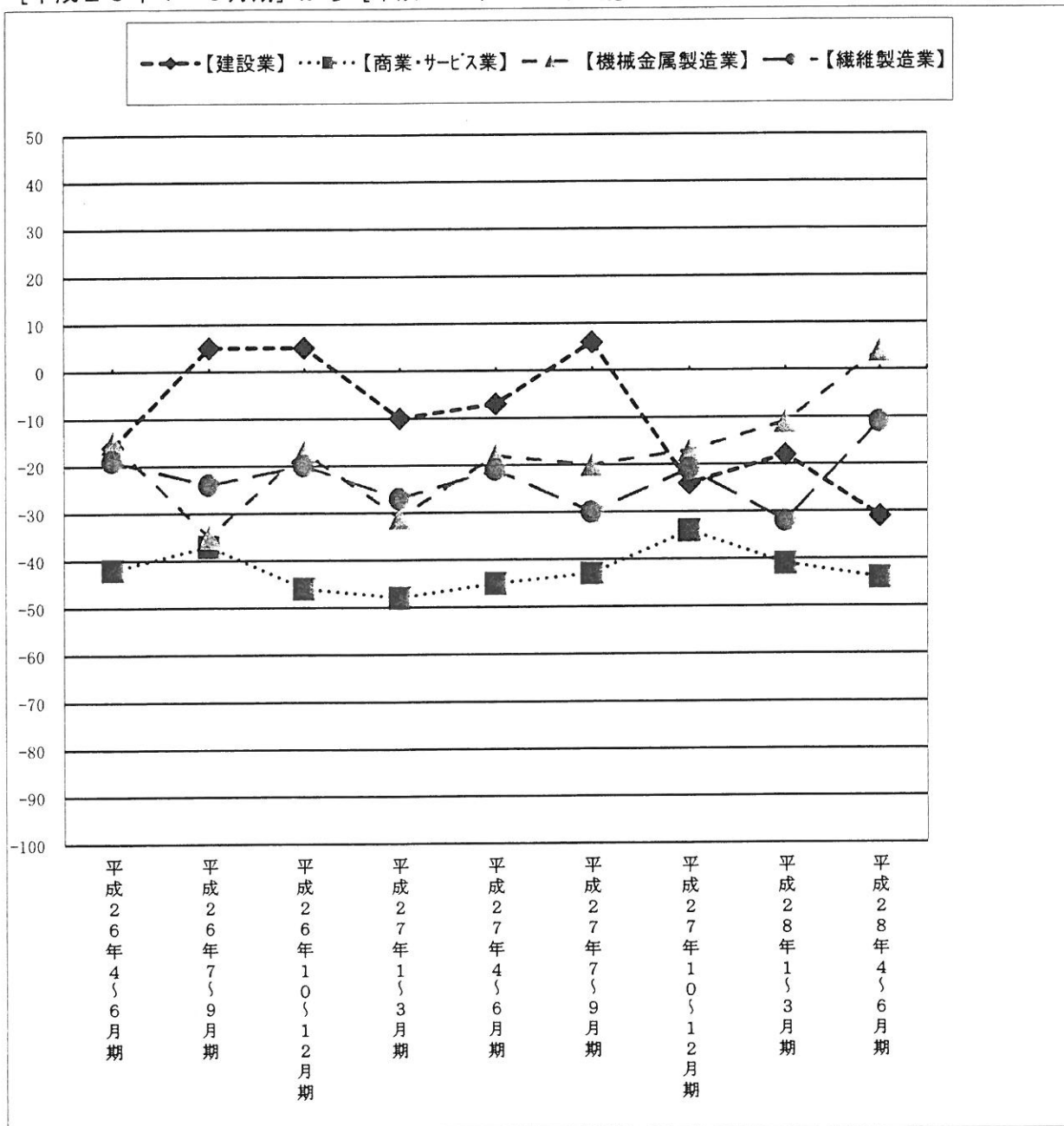
【経営上の問題点】

経営上の問題点としては、**建設業**では「民間需要の停滞」（25%）「官公需要の停滞」（16%）、**商業・サービス業**では「需要の停滞」（21%）「消費者ニーズの変化への対応」（14%）、**機械金属製造業**では「製品単価の低下・上昇難」（18%）「需要の停滞」（16%）、**繊維製造業**では「需要の停滞」（21%）「製品単価の低下・上昇難」（20%）となっている。

業況DIの推移

	【建設業】	【商業・サービス業】	【機械金属製造業】	【繊維製造業】
平成26年4～6月期	-16	-42	-15	-19
平成26年7～9月期	5	-37	-35	-24
平成26年10～12月期	5	-46	-17	-20
平成27年1～3月期	-10	-48	-31	-27
平成27年4～6月期	-7	-45	-18	-21
平成27年7～9月期	6	-43	-20	-30
平成27年10～12月期	-24	-34	-17	-21
平成28年1～3月期	-18	-41	-11	-32
平成28年4～6月期	-31	-44	4	-11

[平成26年4～6月期] から [平成28年4～6月期]



2. 業種別の今期の業況・来期の業況予測

【建設業】

●今期業況

今期の業況DIは-31。前期比は-13、前年同期比では-24であった。

業種別では建築・大工業[-57]、土木業[-33]、電気工事業[±0]、その他[±0]であった。

●来期業況

来期業況予測のDIは-19。前期比±0、前年同期比では-12ポイントであった。

【商業・サービス業】

●今期業況

今期の業況DIは-44。前期比は-3、前年同期比では+1ポイントであった。

業種別では、卸売業[-60]、小売業[-56]、飲食業[-22]、サービス業では[-26]となっている。

●来期業況

来期業況予測のDIは-45。前期比-9、前年同期比では-9ポイントであった。

【機械金属製造業】

●今期業況

今期の業況DIは+4。前期比では+36、前年同期比では+22ポイントであった。

業種別では、鉄鋼業[-17]、金属製品業[±0]、一般機械器具業[+17]、電気機械器具業[±0]、輸送用機械器具業[+20]、精密機械器具業[+50]、プラスチック製造業[-25]、その他[±0]となっている。

●来期業況

来期業況予測のDIは-8。前期比+34、前年同期比+13ポイントとなった。

【繊維製造業】

●今期業況

今期の業況DIは-11。前期比では+21、前年同期比では+10ポイントであった。

業種別では、擦糸業[+100]、織物業[+27]、染色整理業[-60]、ニット・メリヤス業[-50]、レース業[-100]、縫製業[-67]、刺繍業[±0]となっている。

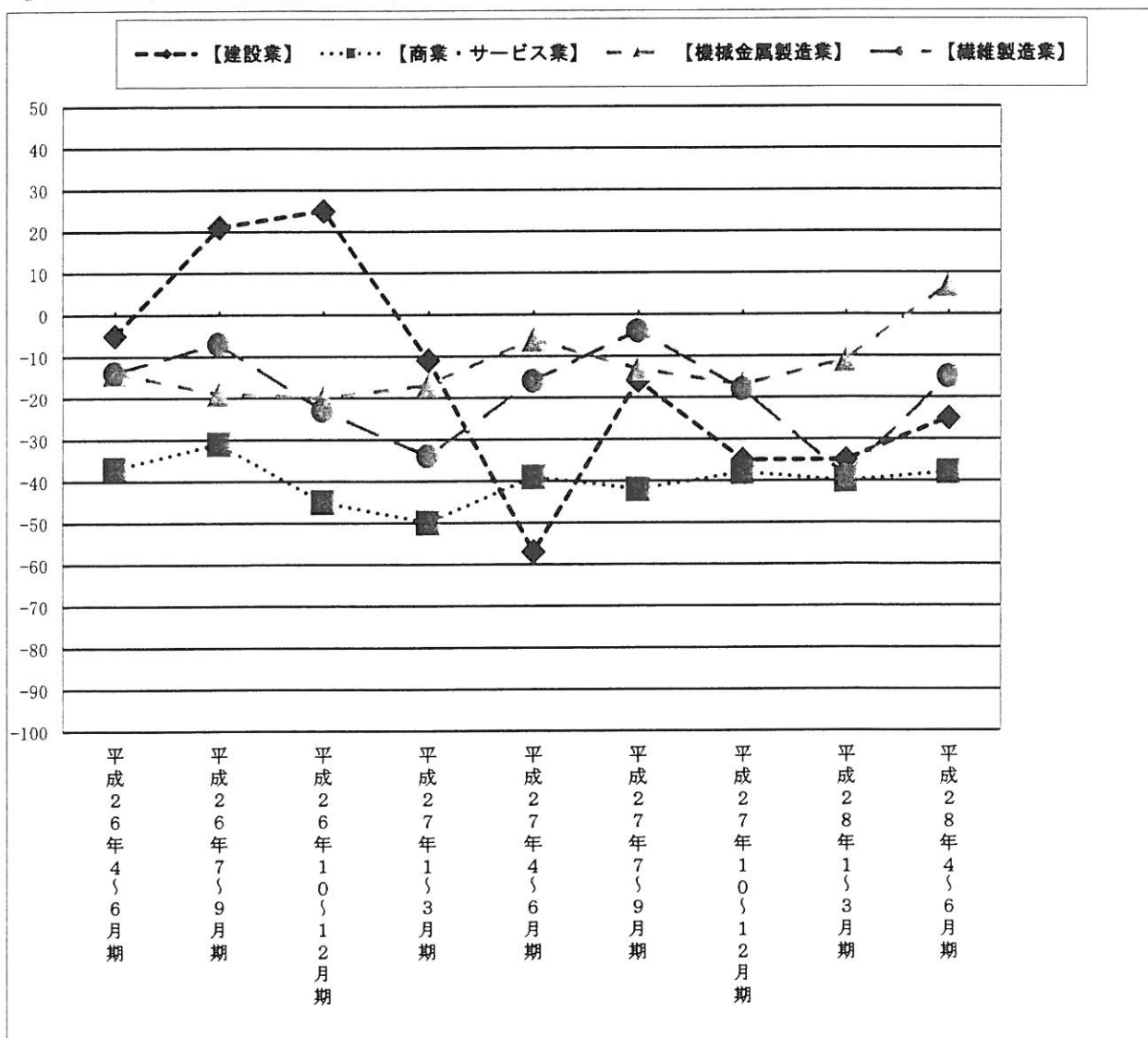
●来期業況

来期業況予測のDIは-25。前期比-2、前年同期比では-4ポイントであった。

売上額（完成工事額）DIの推移

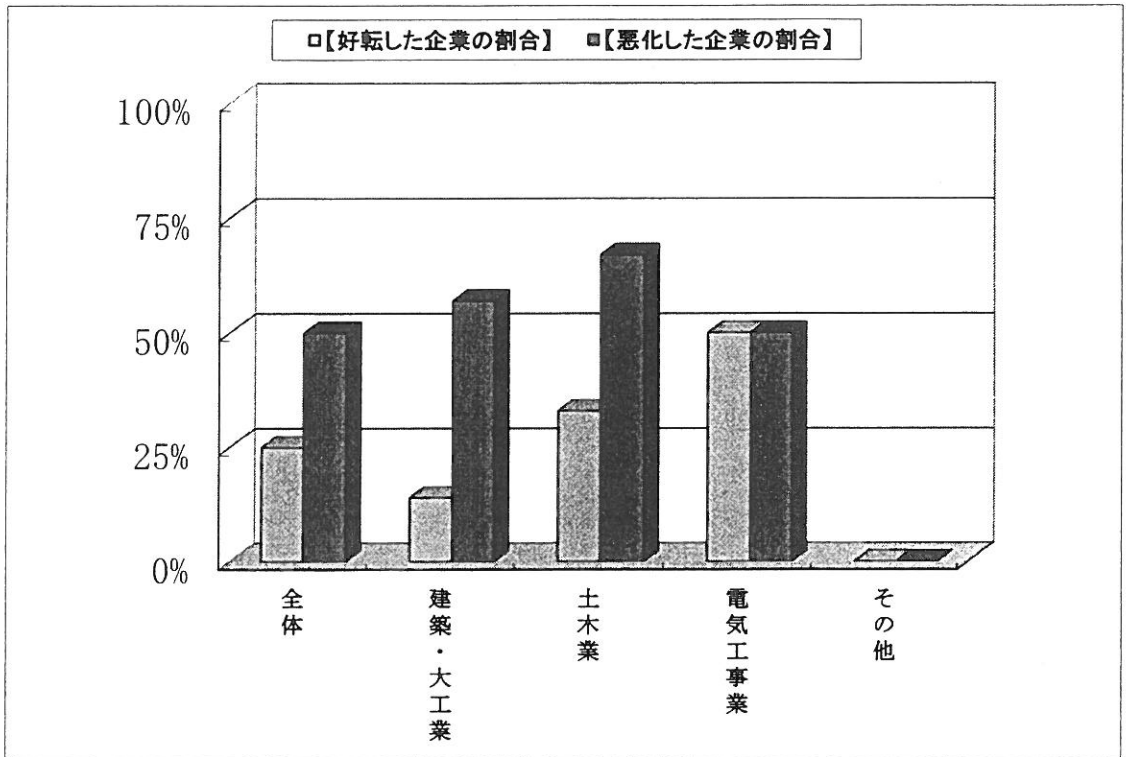
	【建設業】	【商業・サービス業】	【機械金属製造業】	【繊維製造業】
平成26年4～6月期	-5	-37	-14	-14
平成26年7～9月期	21	-31	-19	-7
平成26年10～12月期	25	-45	-20	-23
平成27年1～3月期	-11	-50	-17	-34
平成27年4～6月期	-57	-39	-6	-16
平成27年7～9月期	-16	-42	-13	-4
平成27年10～12月期	-35	-38	-17	-18
平成28年1～3月期	-35	-40	-11	-39
平成28年4～6月期	-25	-38	7	-15

[平成26年4～6月期] から [平成28年4～6月期]

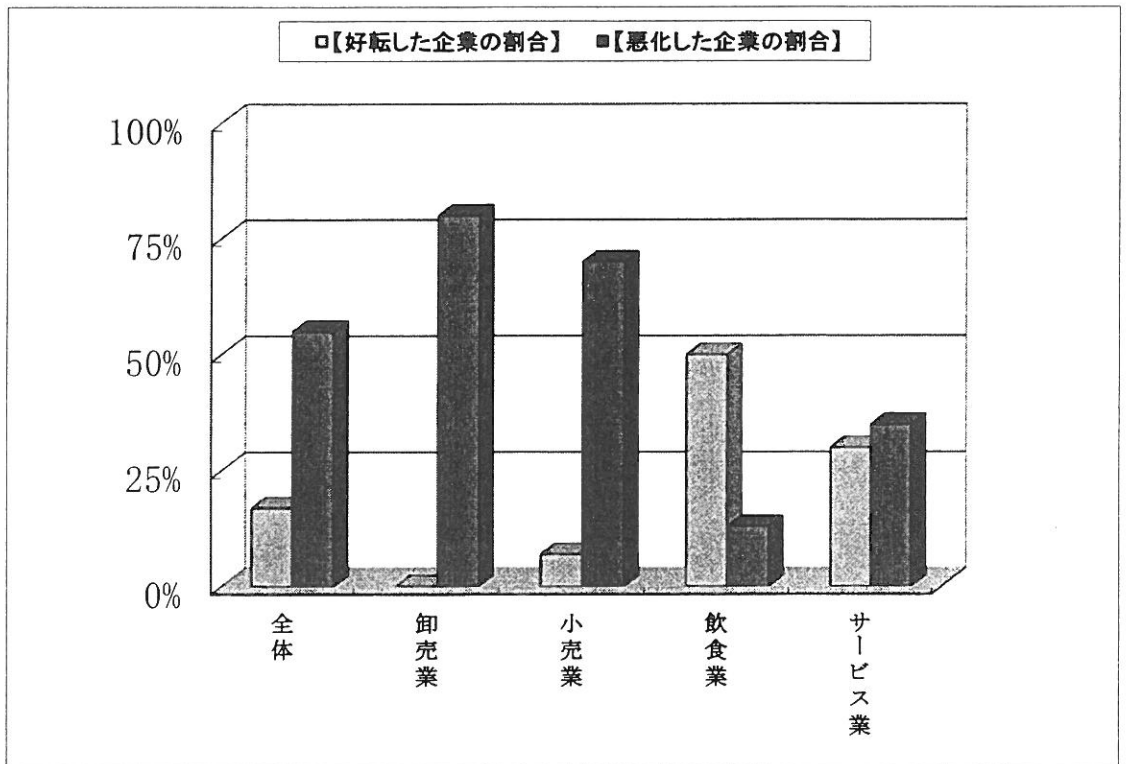


業種別売上額（完成工事額）の状況（前年同期比）

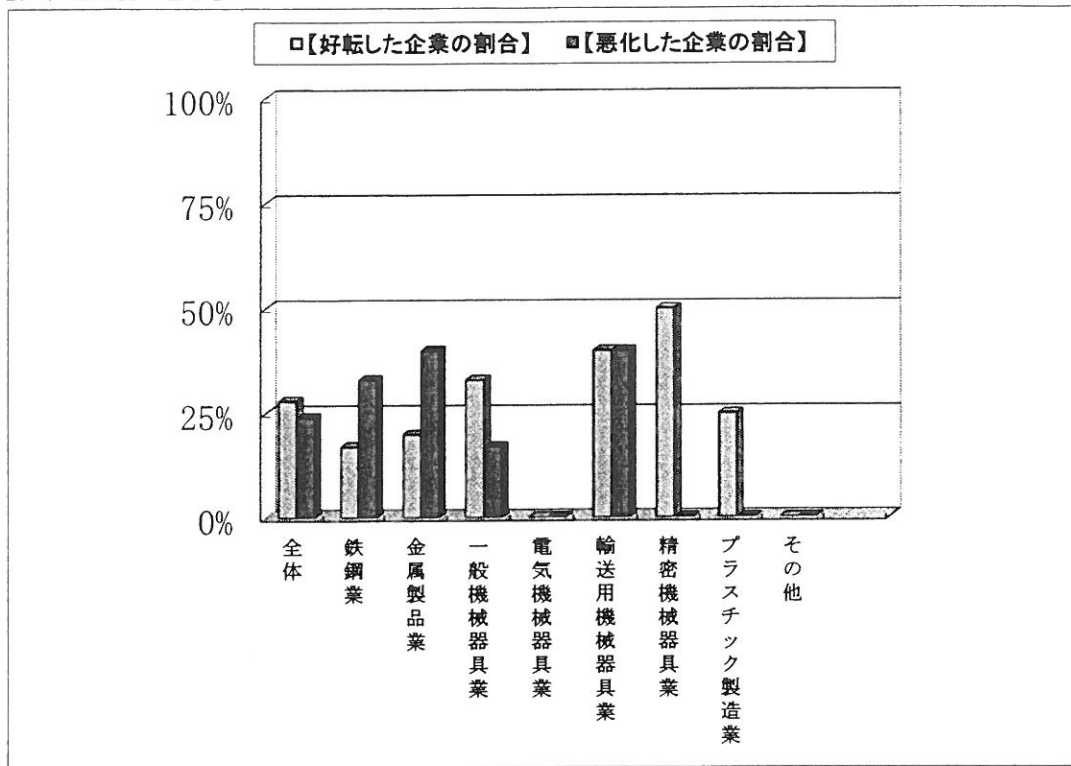
【建設業】



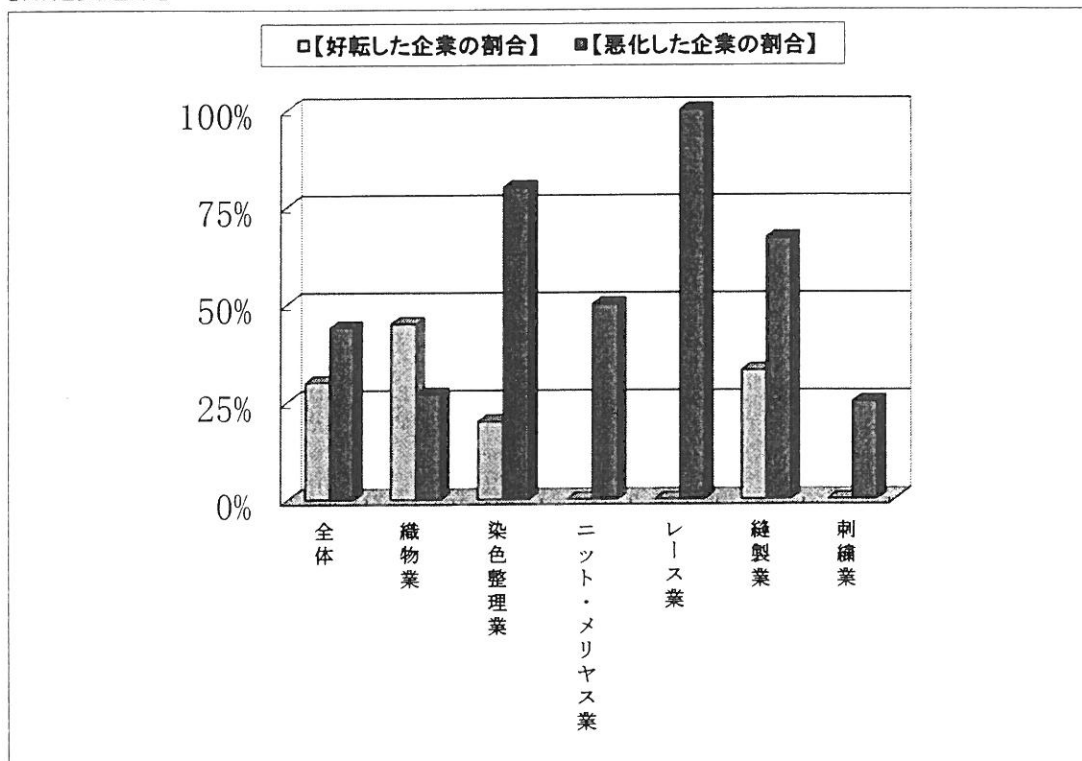
【商業・サービス業】



【機械金属製造業】



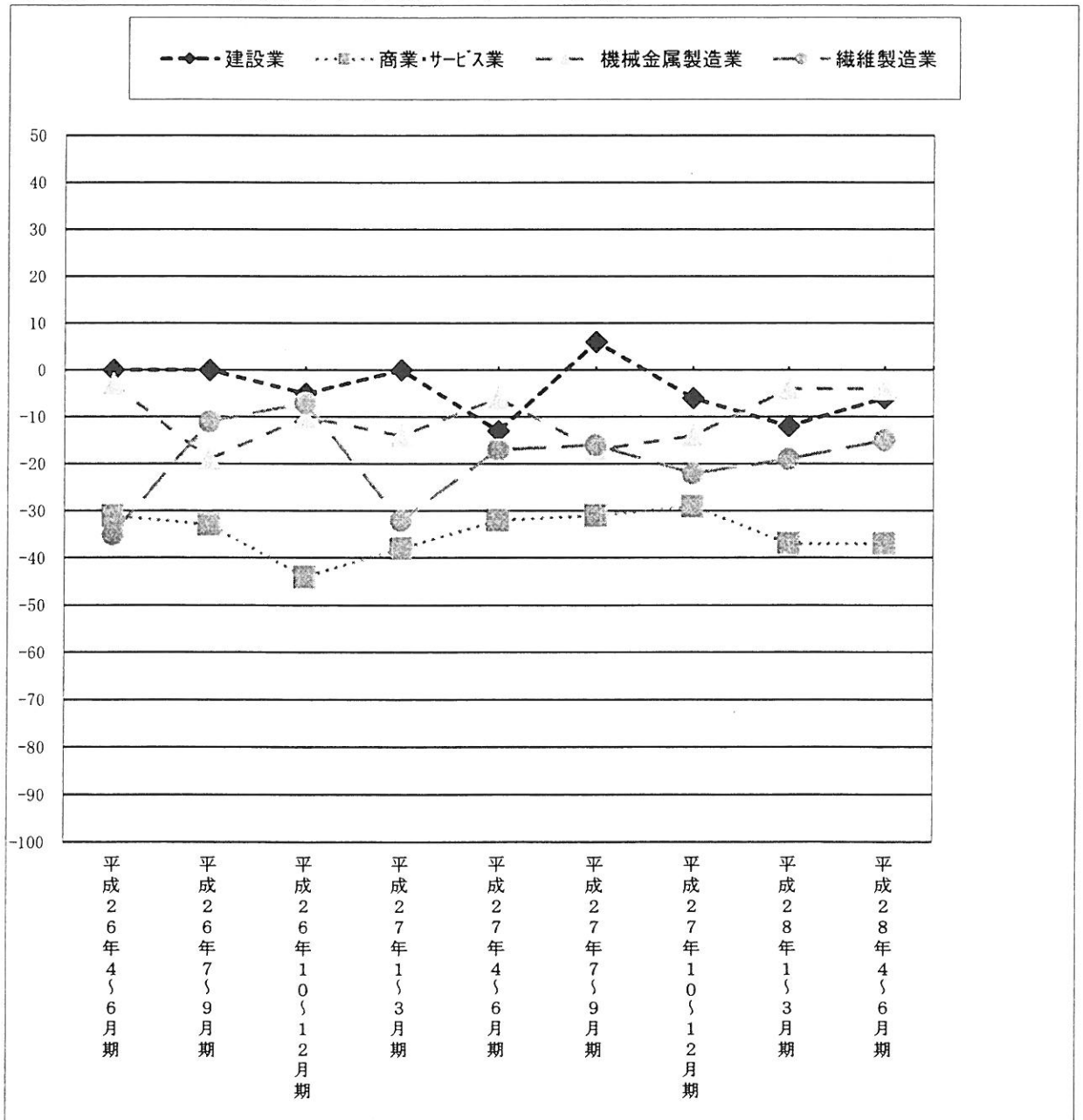
【繊維製造業】



資金繰りDIの推移

	建設業	商業・サービス業	機械金属製造業	繊維製造業
平成26年4～6月期	±0	-31	-3	-35
平成26年7～9月期	±0	-33	-19	-11
平成26年10～12月期	-5	-44	-10	-7
平成27年1～3月期	±0	-38	-14	-32
平成27年4～6月期	-13	-32	-6	-17
平成27年7～9月期	6	-31	-17	-16
平成27年10～12月期	-6	-29	-14	-22
平成28年1～3月期	-12	-37	-4	-19
平成28年4～6月期	-6	-37	-4	-15

[平成26年4～6月期] から [平成28年4～6月期]



今期直面している経営上の問題点

	1位(%)	2位(%)	3位(%)	4位(%)	5位(%)	
建設業	民間需要の停滞 25.6	官公需要の停滞 16.3	下請業者の 確保難 9.3	熟練技術者の 確保難 9.3	請負単価の低下・ 上昇難 9.3	
前期	1位 22.2	3位 13.3	6位 2.2	5位 8.9	2位 15.6	
前年同期	1位 18.4	5位 7.9	6位 5.3	4位 10.5	2位 15.8	
商業・サービス業	需要の停滞 21.1	消費者ニーズの 変化への対応 14.6	購買力の他地域 への流出 8.5	販売単価の 低下・上昇難 7.0	大企業進出での 競争激化 5.5	材料等仕入単価の 上昇 5.5
前期	1位 20.1	2位 12.3	2位 12.3	6位 5.2	4位 7.1	9位 3.9
前年同期	1位 19.0	2位 14.9	3位 10.8	4位 8.2	6位 6.3	5位 7.7
機械金属製造業	製品単価の低下・ 上昇難 18.8	需要の停滞 16.5	熟練技術者の 確保難 12.9	製品ニーズの 変化への対応 12.9	生産設備の不足・ 老朽化 8.2	
前期	1位 20.3	2位 16.5	3位 10.1	4位 8.9	3位 10.1	
前年同期	1位 16.7	1位 16.7	3位 11.9	6位 7.1	4位 10.7	
繊維工業製造業	需要の停滞 21.3	製品単価の低下・ 上昇難 20.0	生産設備の不足・ 老朽化 12.0	従業員の確保難 9.3	製品ニーズの 変化への対応 8.0	
前期	1位 24.4	2位 16.7	3位 12.8	4位 9.0	4位 9.0	
前年同期	2位 18.1	1位 20.5	4位 10.8	8位 3.6	5位 9.6	

今期の従業員数D I

	建設業	商業・サービス業	機械金属製造業	繊維製造業
平成26年4～6月期	22	-4	19	-12
平成26年7～9月期	26	-15	18	±0
平成26年10～12月期	20	-11	8	7
平成27年1～3月期	5	-2	15	±0
平成27年4～6月期	±0	-3	-6	-17
平成27年7～9月期	12	-8	14	-8
平成27年10～12月期	6	-10	7	-8
平成28年1月～3月期	±0	-13	±0	-8
平成28年4月～6月期	±0	-6	-4	12

事業所からのコメント（直面している問題点など）

【建設業】

- ・ 公共工事の落ち込みが激しく人や資材の確保が難しくなっている。
- ・ 経済の低迷と大・中・小の企業間格差の拡大

【商業・サービス業】

- ・ 空き店舗の増加により客の商店街での滞留時間が減少している。空き店舗対策が必要。
- ・ 内税方式で商売をしているため、過去消費税増税にも粗利減として経営してきた。単価をアップすれば今以上に利用客や頻度が減り、単価を上げることが出来ない。単価アップしても客数・売上の増加が見込めるオンリーワンのものを持ちたいが未だに自分の強みを持ってない
- ・ 店主の高齢化
- ・ ネット販売による価格競争。
- ・ 町を活性化し人口を増加させてほしい。
- ・ 2017年4月の消費税増税が2年半延期されたのは良かったと思う。消費の低迷は深刻である。来年4月に増税すれば景気が底割れする。安倍政権の判断は正しかったと思う。グローバル経済の中での影響が大きい。とくに中国の低速があるのではないかと思う。全国的に地方経済が厳しい中、これ以上の負担はもっと長い需要の低迷を招く。
- ・ クールビズ等の社会的変化により市場が縮小している。

【機械金属製造業】

- ・ 人材不足
- ・ 取引先が好調のため生産量・仕事量とも増加しているが、それ以上のコスト低減のため、忙しくなっても利益が減少するという状況が更に加速していくと見込んでいる。
- ・ 工場建屋の老朽化

【繊維製造業】

- ・ 熟練が必要な作業工程であるが工賃が安い。そのため、給与・賃金が低いので作業者を集めにくい。
- ・ 需要が今年になってから急に落ちた。特に製品の値引きの話が多くなってきた。